

“大山詣り”のストーリーが日本遺産に認定!



江戸庶民の信仰と行楽の地 ～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～

大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木太刀^{きだち}を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を引き起こし、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れたと言われている。

大山詣りは、今も先導師^{せんどうし}たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り、山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき、大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。



ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン改訂第4版(仏語)にて
大山阿夫利神社からの眺望は2つ星★★・大山は1つ星★として紹介されました。

第6回

“おおやまみち” まちづくりサミット

in 伊勢原

開催プログラム

日程：平成30年2月12日(月・休)

時間：午後1時から4時頃まで

場所：伊勢原市民文化会館 小ホール

【主催】伊勢原市 【共催】伊勢原市日本遺産協議会 【協力】大山みちの会

ところで...

「日本遺産」
ってなに？

文化庁が認定する
日本の文化・伝統を語るストーリーです。
ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形・無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより地域の活性化を図ることを目的としています。

世界遺産や
指定文化財
とは違うの？

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財(文化遺産)の価値付けを行い、保護を図ることを目的とし、
日本遺産は、地域に点在する遺産をストーリーでつなげて「面」として活用・発信することで、地域の活性化を図ることを目的としています。



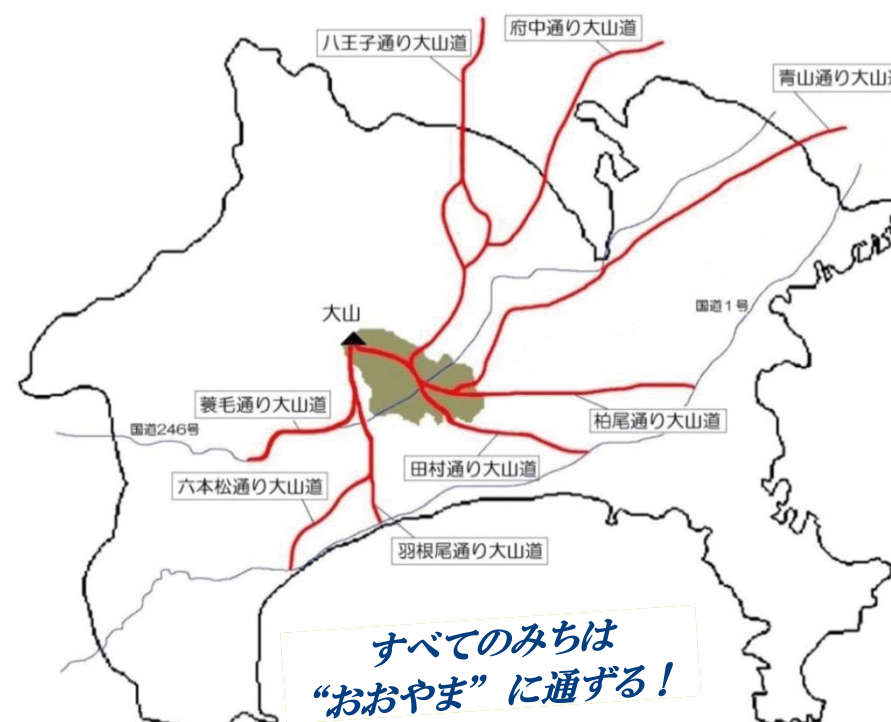
「おおやまみち」
についてご説明



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

“おおやまみち”は、江戸時代に関東各地から大山を目指して参詣者が通った道です。

これらの街道は、それぞれの時代にまちの顔として大きな役割を果たしてきており、現在でも多くの自治体が、“おおやまみち”や“大山街道”をまちづくりのキーワードとして、地域振興を行っています。



すべてのみちは
“おおやま”に通ずる!